

平成 21 年度循環型社会形成推進科学研究費補助金

循環型社会形成推進科学研究推進事業報告書
(概要版)

平成 22 年 4 月

財団法人 日本環境衛生センター

目 次

1. 「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」に係る普及・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - (1) インターネットを活用した成果の普及と次年度の広報・・・・・・・・・・・・・・3
 - (2) 「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」研究成果発表会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 - (3) 循環型社会形成推進科学研究に関する意見交換会の開催・・・・・・・・・・・・・・10

2. 3Rイニシアティブ特別枠に係る研究事業を支援するための国際的な会議・・・・・・・・12

3. 外国人研究者の国内招聘と日本人研究者の海外派遣・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

1. 「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」に係る普及

(1) インターネットを活用した成果の普及と次年度の広報

1) 目的

前年度に行われた「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の有意義な成果を効果的に普及し、来年度の公募に係る広報を行うことを目的として、インターネットを活用した研究事業の普及と次年度の広報を行った。

2) ホームページの作成

ホームページは(財)日本環境衛生センターのサーバーを利用の上、作成した。原稿のhtmlコーディングの基礎及び日常的な内容の更新や変更は(財)日本環境衛生センターが直接行い、タイムリーな情報提供を図った。ホームページの内容は別紙1を参照。

3) ホームページへのリンクおよびメールでの案内

環境省、EIC ネット、一般社団法人廃棄物資源循環学会、一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会、(社)全国都市清掃会議等の関係団体のホームページにリンクの協力をお願いし、効率的にユーザーを誘導することで、サイトのアクセス率を高めた。さらに一般社団法人廃棄物資源循環学会、(社)土木学会や(社)化学工学会等の関連学会、日本廃棄物団体連合会、全国環境衛生・廃棄物関係課長会の協力を得て、会員宛へメールで情報を提供した。

4) 郵送での案内および専門紙等への掲載

研究成果発表会の開催や次年度の公募に関する案内を次の広報先へ郵送するとともに、広告を専門紙に掲載した。平成22年度の公募要領は別紙2、専門紙への掲載記事は別紙3を参照。

①案内送付先

- ・日本廃棄物団体連合会 15 会員
- ・地方自治体の研究機関 99 機関
- ・学会 17 団体
- ・大学 88 機関、高等専門学校 51 機関
- ・民間企業 170 社 等

②広告掲載先

- ・平成21年11月2日循環経済新聞および平成21年11月4日付け環境新聞に研究成果発表会に係る広報記事を掲載した。

- ・平成 22 年 1 月 13 日付け環境新聞、平成 22 年 1 月 15 日付けウエイスト・マネジメント、平成 22 年 1 月 18 日付け循環経済新聞に公募に係る記事を掲載した。

5) アクセス数

ホームページ開設時からのトップページアクセス数は以下のとおりである。アクセス総数は 3,750 件であり、最もアクセス数が多かったのは 11 月の 1055 件であった。

表 1-1 トップページアクセス数 (3/15 現在)

事業内容	国内招聘・海外派遣募集									
				SWAPI 開催		研究成果発表会開催		平成 22 年度募集		
月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
トップページ	362	359	169	220	971	1055	174	205	155	80

(留意)

- ・6 月～9 月までは研究者の海外派遣・国内招聘ページおよびアジア太平洋廃棄物専門家会議ページへのアクセス合計数。10 月以降はトップページのアクセス数。

(参考)

- ・外国人研究者の国内招聘および日本人研究者の海外派遣の募集期間は平成 21 年 6 月 10 日～11 月 30 日
- ・アジア太平洋廃棄物専門家会議 (SWAPI) の開催期間は平成 21 年 9 月 16 日～18 日
- ・研究成果発表会の開催日は平成 21 年 10 月 27 日、11 月 5 日、11 月 10 日、11 月 17 日、11 月 27 日
- ・平成 22 年度循環型社会形成推進科学研究費補助金の募集期間は平成 22 年 1 月 4 日～2 月 5 日

(2) 「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」研究成果発表会の開催

1) 概要

本研究発表会は、平成20年度環境省廃棄物処理等科学研究費補助金（循環型社会形成推進科学研究費補助金）により実施された「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の成果を、広く一般に公開することを目的に、研究成果のテーマ毎に下記の5会場にて開催した。

表 1-2 研究発表会 開催概要

	テーマ	地域	会場	日程
1	資源循環	福岡県福岡市	アクロス福岡 国際会議場	10月27日(火)
2	システム改善	大阪府大阪市	私学教育文化会館 講堂	11月05日(木)
3	バイオマス/事業評価	北海道札幌市	札幌コンベンションセンター 204 会議室	11月10日(火)
4	有害物質対策	東京都千代田区	富士ソフトアキバプラザ セミナールーム1	11月17日(火)
5	総合	宮城県仙台市	仙台市情報・産業プラザ	11月27日(金)

2) プログラム

本研究発表会は各会場において、下記のプログラム詳細のとおり実施された。

① 福岡会場（資源循環）

9:55	開会
10:00~10:30	特別講演1「循環型社会形成推進科学研究費について」 土屋 誠（環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長補佐）
10:30~11:30	特別講演2「金属素材から見た資源循環のシステムと技術」 中村崇（東北大学多元物質科学研究所）
11:30~12:30	休憩（60分）
12:30~13:00	発表1「国外リサイクルを含むシナリオ間のライフサイクル比較手法とプラスチックへの適用」 森口 祐一（独立行政法人国立環境研究所）
13:00~13:30	発表2「アジア地域における廃電気電子機器と廃プラスチックの資源循環システムの解析」 寺園 淳（独立行政法人国立環境研究所）
13:30~14:00	発表3「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析」 酒井 伸一（京都大学）
14:00~14:15	休憩（15分）

14:15~14:45	発表4 「アジア地域における自動車リサイクルシステムの比較研究」 外川 健一（熊本大学）
14:45~15:15	発表5 「日韓における拡大生産者責任制度の実態分析とパートナーシップ構築に関する研究」 劉 庭秀（東北大学大学院国際文化研究科）
15:15~15:45	発表6 「中国における廃棄物資源管理能力向上に関する政策研究—地域循環システム実現のための地方における廃棄物資源管理の実効性と地域社会浸透—」 柳下 正治（上智大学） ※当日発表：宇都宮大学国際学部 高橋若菜
15:45~16:15	発表7 「アジア地域におけるリサイクルの実態と国際資源循環の管理・3R政策」 小島 道一（日本貿易振興機構）
16:15	閉会

② 大阪会場（システム改善）

10:25	開会
10:30~11:00	特別講演1 「循環型社会形成推進科学研究費について」 土屋 誠（環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長補佐）
11:00~12:00	特別講演2 「ドイツの埋め立て廃止計画の背景と「日本一の里山」から考える持続可能性」 中野 加都子（神戸山手大学現代社会学部環境文化学科）
12:00~13:00	休憩（60分）
13:00~13:30	発表1 「一般廃棄物処理システムにおける環境負荷・経済性の実効性評価手法に関する研究」 小野田 弘士（早稲田大学環境総合研究センター）
13:30~14:00	発表2 「物質ストック勘定体系の構築とその適用による廃棄物・資源管理戦略研究」 橋本 征二（独立行政法人国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター）
14:00~14:30	発表3 「拡大生産者責任とリサイクル市場に関する研究」 植田 和弘（京都大学 経済研究所） 発表者：栗田 郁真（京都大学）
14:30~14:45	休憩（15分）
14:45~15:15	発表4 「新築系建設廃棄物トレーサビリティシステムの開発」 神谷 典男（住友林業株式会社 情報システム部）
15:15~15:45	発表5 「京都地域におけるごみ有料化施策による資源循環変化の3R行動モデル解析」 平井 康宏（京都大学 環境保全センター）
15:45	閉会

③ 札幌会場（バイオマス/事業評価）

10:25	開会
10:30~11:00	特別講演1「循環型社会形成推進科学研究費について」 土屋 誠（環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長補佐）
11:00~12:00	特別講演2「廃棄物系バイオマスの資源循環システムの現状と課題」 井上 雄三（独立行政法人国立環境研究所 特別客員研究員）
12:00~13:00	休憩（60分）
13:00~13:30	発表1「バイオガス化プラント排水中の高濃度アンモニアの MAP-ANAMMOX ハイブリッド処理技術の開発」 古川 憲治（熊本大学大学院自然科学研究科 教授）
13:30~14:00	発表2「生ごみ未分別可燃ごみのバイオガス化システムの実用化」 多田羅 昌浩（鹿島建設株式会社 技術研究所 地球環境・バイオ Gr 主任研究員） *当日発表：遠藤 隆志（株式会社協和エクシオ CE・環境事業本部環 境本部）
14:00~14:30	発表3「生ごみ等廃棄物系バイオマスからのバイオエタノール高効率回収 技術開発」 大坂典子（東京ガス株式会社 技術開発本部基盤技術部技術研究所）
14:30~14:45	休憩（15分）
14:45~15:15	発表4「分別収集・中継輸送に関する費用対効果・費用便益の分析」 松井 康弘（岡山大学大学院環境学研究科 准教授）
15:15~15:45	発表5「ベンチマーク指標を活用した一般廃棄物処理事業の評価に関する 研究」 松藤 敏彦（北海道大学大学院工学研究科 教授）
15:45	閉会

④ 東京会場（有害物質対策）

10:25	開会
10:30~11:00	特別講演1「循環型社会形成推進科学研究費について」 土屋 誠（環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長補佐）
11:00~12:00	特別講演2「無害化・資源化技術の現状と課題」 藤田 正憲（高知工業高等専門学校 校長）
12:00~13:00	休憩（60分）
13:00~13:30	発表1「アスベスト含有廃棄物の分解処理による無害化の確認試験方法の 確立とその応用」 野馬 幸生（独立行政法人国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究セ ンター 室長） *当日発表：山本 貴士（独立行政法人国立環境研究所 循環型社会・廃 棄物研究センター 廃棄物試験評価研究室 主任研究員）
13:30~14:00	発表2「最終処分場におけるアスベスト廃棄物の安全性能評価手法の開 発」 山田 正人（独立行政法人国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究セ ンター 主任研究員） *当日発表：遠藤 和人（独立行政法人国立環境研究所）

14:00~14:30	発表3「アスベスト廃棄物と廃棄物焼却灰の高効率・高信頼性溶融無害化および資源化」 葛西 栄輝（東北大学多元物質科学研究所 教授）
14:30~14:45	休憩（15分）
14:45~15:15	発表4「低濃度PCB汚染物の焼却処理に関する研究」 泉澤 秀一（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 技術顧問） *当日発表：福本隆治（財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 技術部次長）
15:15~15:45	発表5「プラスチック含有廃棄物の処理およびリサイクル過程における有害物質の生成特性解析と効率的対策手法の開発」 川本 克也（独立行政法人国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 資源化・処理処分技術研究室 室長）
15:45	閉会

⑤ 仙台会場（総合）

10:25	開会
10:30~11:00	特別講演1「循環型社会形成推進科学研究費について」 土屋 誠（環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長補佐）
11:00~12:00	特別講演2「循環社会のあり方についての思い」 藤間幸久（元名古屋大学 教授）
12:00~13:00	休憩（60分）
13:00~13:30	発表1「高度処理浄化槽におけるリン除去・回収・資源化技術の開発とシステム評価」 稲森 悠平（福島大学 理工学研究科 教授）
13:30~14:00	発表2「廃棄物処理・リサイクル施設における安全・安心対応策に関する研究」 永田 勝也（早稲田大学 環境総合研究センター 所長） ※当日発表：切川 卓也（早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科 助教）
14:00~14:30	発表3「ライフサイクル環境負荷評価を完結させるための最終処分場環境会計に関する研究」 中山 裕文（九州大学大学院 工学研究院 准教授）
14:30~14:45	休憩（15分）
14:45~15:15	発表4「FRPの亜臨界水分解技術の実用化開発」 真継 伸（パナソニック電気株式会社 新規商品創出技術開発部副参事）
15:15~15:45	発表5「循環型社会形成に向けての廃棄物処理施設のリニューアルモデル構築に関する研究」 八木 美雄（財団法人廃棄物研究財団 専務理事）
15:45	閉会

3) 抄録集

特別講演の発表資料および研究成果発表者の発表要旨を会場毎に冊子にとりまとめ、発表会参加者に配布した。研究成果発表会の抄録集については別紙 4 を参照。

4) 開催案内

事前広報として（財）日本環境衛生センターのホームページや環境新聞および循環経済新聞に開催案内を掲載した。さらに、各開催地域の自治体、地方自治体の研究機関、学会、大学、高等専門学校、民間企業、日本廃棄物団体連合会員等へ開催案内チラシを送付した。研究成果発表会の案内ポスター及びチラシは別紙 5 を参照。

5) 参加者数

各会場の参加者数および参加者の内訳は以下の表のとおりである。5 会場の参加者合計数は 267 名であり、参加者数の内訳は自治体が約 47%、企業が約 34%、研究機関・その他等が約 18%を占めた。

表 1-3 研究発表会の参加者数

	参加者数								
	自治体	企業			研究機関、その他等				計
		一般 企業	廃棄物・リサイ クル業	コンサルテ ィング業	研究機 関等	教育機 関	NPO・ 団体	その他 *1	
福岡会場 (10/27)	67	2	2	0	4	0	2	7	84
大阪会場 (11/5)	11	10	9	3	1	1	1	1	37
札幌会場 (11/10)	20	5	4	3	1	0	1	3	37
東京会場 (11/17)	12	26	11	6	1	1	4	9	70
仙台会場 (11/27)	16	5	5	1	3	2	6	1	39
合計	126	48	31	13	10	4	14	21	267
		92			49				

*1: 中央官庁、学生、不明

(3) 循環型社会形成推進科学研究に関する意見交換会の開催

1) 概要

全国6地域において都道府県及び政令指定都市の行政部局及び環境試験研究機関との意見交換の場を設け、当該研究費について情報提供を行うとともに、各地域における循環型社会形成の推進に係る研究・技術開発等の現状、課題等について意見交換を行い、今後の当該研究費の公募課題、運用等の効率的・効果的な運用に資するものとする。

2) 開催方法

全国の都道府県及び政令指定都市および関係する研究機関において6地域ブロックに分かれ、7会場で意見交換を行った。

3) 開催日時及び場所

表 1-4 開催日時及び場所

地域	日時	会場	参加者
北海道・東北	3月5日(金) 13:30~16:30	ホテルサンルート仙台 会場：青葉の間	北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、 福島県、仙台市 計7道県市12名
関東・甲信越	3月2日(火) 9:30~12:30	東京国際フォーラム 会場：G507	埼玉県、千葉県、神奈川県、横浜市、川崎市 計5県市7名
	3月2日(火) 13:30~16:30	東京国際フォーラム 会場：G507	茨城県、栃木県、群馬県、長野県 計4県7名
東海・北陸	3月8日(月) 13:30~16:30	ホテルサンルートプラザ名古屋 会場：藤の間	静岡県、富山県、福井県、岐阜県、愛知県、 三重県、名古屋市 計7県市11名
近畿	3月9日(火) 14:00~17:00	大阪新阪急ホテル 会場：花の間	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、大阪市、 堺市、神戸市 計7府県市11名
中国・四国	3月10日(水) 13:30~16:30	ホテルグランヴィア岡山 会場：トパーズ	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、 愛媛県、高知県 計7県12名
九州	3月12日(金) 13:30~16:30	博多グリーンホテル2号館 会場：第10会議室	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、 宮崎県、福岡市 計7県市13名

※秋田県、札幌市、東京都、新潟県、山梨県、新潟市、石川県、静岡市、浜松市、奈良県、和歌山県、京都市、広島市、徳島県、香川県、鹿児島県、沖縄県、北九州市の18都県市はご欠席。

4) 参加者

都道府県及び政令指定都市（環境試験研究機関を有する）の廃棄物処理等、循環型社会形成推進担当部局及び環境試験研究機関から各1~3名、合計44都道府県市73名

5) 内容等

- (1) 循環型社会形成推進科学研究費補助金概要及び当該補助金による研究・技術開発成果

- (2) 各都道府県及び政令指定都市で過去3年間程度(本年度実施中を含む)に実施した廃棄物処理等、循環型社会形成推進に資する研究・技術開発の状況
- (3) 各地方公共団体における廃棄物処理等、循環型社会形成推進に関する行政施策課題、必要な研究・技術開発課題
- (4) その他、関連事項
資料等：各地方自治体への事前アンケート調査結果、平成20年度終了課題報告書

6) アンケート結果および意見交換会要旨

各都道府県及び政令指定都市からのアンケート集計結果および各ブロックによる意見交換会の要旨については別紙6を参照。

2. 3Rに係る研究事業を支援するための国際的な会議

1) 趣旨

環境省ではアジア地域全体における循環型社会の構築に向け、我が国の3R・廃棄物管理の制度・技術・経験の国際展開を図るに当たって、廃棄物管理の専門家ネットワークが重要な役割を担うものと位置づけている。環境省が提示する関係組織と協力し、事務局として「第6回アジア太平洋廃棄物専門家会議（SWAPI）」の企画・運営を行った。

2) 開催概要

開催日：平成21年9月16日（水）～18日（金） 3日間

開催場所：名古屋大学 / ルブラ王山（愛知県名古屋市）

専門家会議(1) 豊田講堂 第1会議室

国際シンポジウム 第6会場 シンポジオン会議室

専門家会議(2) ルブラ王山 葵の間

主催：第6回アジア太平洋廃棄物専門家会議（SWAPI）実行委員会

プログラム概要：9月16日（水）専門家会議(1) / 終了後 WRF へ参加

9月17日（木）午前：施設見学 / 午後：国際セッションへ参加

9月18日（金）午前：国際シンポジウム / 午後：専門家会議(2)

*今回は廃棄物資源循環学会と共同開催

3) 参加者

- ① 海外招聘者（12カ国 18名）：中国（2名）、韓国（2名）、台湾（3名）、タイ（2名）、フィリピン（1名）、ベトナム（1名）、バングラディシュ（1名）、カンボジア（1名）、インド（1名）、インドネシア（2名）、マレーシア（1名）、ネパール（1名）

（注記）韓国（2名）、台湾（3名）は自己負担で参加。日本滞在期間4泊5日

- ② 国内関係者：顧問会、実行委員会等 22名 / ワーキンググループ 16名
国際シンポジウム一般参加者 約100名

4) プログラム

プログラムの詳細内容については次の表2-1のとおり。

5) 会議資料

専門家会議および公開セミナーの会議資料等は別紙7のとおり。

6) 開催案内

インターネットでの普及啓発を行うとともに一般社団法人廃棄物資源循環学会等の関係団体、研究機関等への参加呼びかけを行った。

表 2-1 第 6 回アジア太平洋廃棄物専門家会議 プログラム

9月16日(水)

会議名	会場	時間	区分	内容	
専門家会議(1)	豊田講堂 第7会場 (3F第1会議室)	9:10	受付	受付開始	
		座長 : 田中 勝SWAPI会長(鳥取環境大学)、松藤康司国際委員会委員長(福岡大学)			
		9:30-9:40	開会挨拶	田中 勝SWAPI会長(鳥取環境大学)	
		9:40-10:30	討議 (英語のみ)	○第5回(韓国・仁川)会議の報告—発表者: Dr. Orawan ○SWAPI会則・ガイドラインについて(Discussion Paper) —発表者: 渡辺・松村	
		10:30-10:50	コーヒーブレイク		
		10:50-12:30	討議	○メンバーからの各国のsociety活動の進捗報告 ○出版 書籍—発表者: Prof. Agamuthu, Prof. Zhao, 大野 English Journal—発表者: 酒井伸一学会副会長(京都大学) ○3R Knowledge Hub WSおよびThematic WG on Solid and Hazardous Waste(2008年12月)報告—発表者: Dr. Orawan、奥村 ○今後の会議開催 台湾(2010年)発表者 Prof.Ma、韓国(2011年)発表者 Prof. Bae	
顧問会議・実行委員会	豊田講堂 2Fレストラン個室	12:30-13:30		顧問会議と実行委員会の合同開催 (リソースバージョンは2階レストランにて昼食、国内関係者・事務局は控室にお弁当)	
専門家会議(1)	豊田講堂 第7会場 (3F第1会議室)	13:30-15:00	討議	○SWAPI会則・ガイドライン - 討議及び会則の取りまとめ ○個別研究計画の検討 - Reliable data (coordinator: Mr. Watanabe) - Hazardous Waste (coordinator: Dr. Matsumura) - Biomass Waste (coordinator: Mr. Soeda) - Landfill (coordinator: Prof. Matsufuji) - Waste to Energy and Energy Recovery/Efficiency (coordinator: Prof. Jong-In Dong) 代理発表 Prof. Bae Especially for Plasma Technology (Coordinator: Prof. Ma) - Greenhouse gasses and CDM (Coordinator: Mr. Magalang) - Appropriate Technology for Municipal Solid Waste Management (Coordinator: Prof. Damanhuri)	
WRFへの参加	豊田講堂	15:30-19:30	参加 (同時通訳)	15:30-19:30 R'09(環境技術および資源マネジメント国際会議2009)のWorld Resources Forumへの参加。	
歓迎パーティ	グリーンサロン東山	19:30-21:00		SWAPI主催パーティ	

9月17日(木)

会議名	会場	時間	区分	内容
施設見学		7:45	集合	名古屋東急ホテルロビーに集合
	①(株)ダイセキ ②名古屋市リサイクル・ステーション (ピアゴ味鋺店)	9:00-12:00	見学	見学スケジュール(通訳同行) 8:00 ホテル出発 9:00 (株)ダイセキ到着 10:30 (株)ダイセキ出発 11:00 ピアゴ味鋺店到着 12:00 ピアゴ味鋺店出発 12:30 名古屋大学着(バスの中にて昼食)
昼食	バス内	12:00-13:00		
国際セッション	豊田講堂 第6会場 (1Fシンポジオン)	13:30-15:00	ポスター セッション	ポスター口頭発表
	豊田講堂1Fホワイエ	15:15-16:30	ポスター セッション	ポスター展示
国際諮問委員会	豊田講堂 (3F第3会議室)	16:30-18:00		

9月18日(金)

会議名	会場	時間	区分	内容	
国際シンポジウム	豊田講堂 第6会場 (1Fシンポジオン)	8:30-9:15	受付		
		司会: 酒井伸一 学会副会長(京都大学)			
		9:15-9:25	開会挨拶	山本和夫 廃棄物資源循環学会会長(東京大学)	
		9:25-9:45	基調講演(1)	田中 勝 SWAPI会長(鳥取環境大学) 「アジア・太平洋地域における廃棄物マネジメントの戦略的改善」	
		9:45-10:05	基調講演(2)	Prof. Sung-Keun Bae (Korea) “Establishment & Activity of SWAPI”	
	10:05-10:20	コーヒーブレイク			
	豊田講堂 第6会場 (1Fシンポジオン)	「廃棄物埋立と地球温暖化」 座長: Mr. Widhi Handoko (Indonesia)、山田正人 国際委員会副委員長(国環研)			
		10:20-10:35	講演(1)	Prof. Surya Man Shakya (Nepal) “Linkages in Landfill Site Development and Operation”	
		10:35-10:50	講演(2)	Prof. Yong Feng Nie (China) “MSW Landfill Leachate Treatment in China: Requirement, Problem and Strategy”	
		10:50-11:05	講演(3)	Dr. Nguyen Thi Kim Thai (Vietnam) “Landfill Management in Vietnam – New Policy to Reduce Land Use for Municipal Solid Waste Disposal”	
		11:05-11:20	講演(4)	Mr. Albert Altarejos Magalang (Philippines) “GHG (Greenhouse Gas) Emission Reduction & CDM Waste Management Project Activities”	
	11:20-11:40		質疑応答		
昼食	豊田講堂2階 レストラン	12:00-13:00			
国際シンポジウム	豊田講堂 第6会場 (1Fシンポジオン)	座長: Prof. Agamuthu Pariatamby (Malaysia)、松藤康司 国際委員会委員長(福岡大学)			
		13:00-13:15	講演(5)	Dr. Jae-Hyuk Hyun (Korea) “CDM Project Activity in Landfill Site (From Treatment to Enterprise)”	
		13:15-13:30	講演(6)	椿 雅俊(東急建設(株))「マレーシア国廃棄物処分場におけるCDM準好気性埋立プロジェクト」	
		13:30-14:45		総括討議(午後の講演の質疑応答を含む)	
(バスでルブラ王山へ移動)					
専門家会議(2)	ルブラ王山 「葵の間」	座長: 田中 勝 SWAPI会長(鳥取環境大学)、松藤康司 国際委員会委員長(福岡大学)			
		15:10-16:30	討議 (英語のみ)	○専門家会議(1)の続き ○Chair's Summaryの確認	
		16:30-16:50	コーヒーブレイク		
	16:50-17:45	討議 (英語のみ)	○Chair's Summaryの確認 ○閉会挨拶: 田中 勝 SWAPI会長(鳥取環境大学)		
(バスで豊田講堂へ移動)					
意見交換会	豊田講堂 第6会場 (1Fシンポジオン)/ ホワイエ(1F)	18:15-20:00		廃棄物資源循環学会主催レセプション	

3. 外国人研究者の国内招聘と日本人研究者の海外派遣

1) 目的

外国人研究者の国内招聘は、国内の研究機関等が外国人研究者を国内の国際会議等に招聘するものであり、国際会議等での研究成果発表等を通じて科学研究に関する国際協力および相互理解を促進することを目的として実施した。

また、日本人研究者の海外派遣は、日本人若手研究者を国際会議等に派遣し、被派遣研究者が自ら実施した研究成果を国際会議等で発表するとともに、海外の最新情報を収集し、これらの成果を日本国内で公表することにより、循環型社会構築や廃棄物適正処理等に係る研究及び技術開発の推進を図ることを目的として実施した。

2) 外国人研究者の国内招聘及び日本人研究者の海外派遣に関する公募

募集要項を作成し、以下の関係各所へ国内招聘および海外派遣の募集案内を送付した。さらに（財）日本環境衛生センターのホームページに募集案内を掲載した。募集案内の内容は別紙 8 を参照。

① 案内送付先 計 440 箇所

- ・ 日本廃棄物団体連合会 15 会員
- ・ 地方自治体の研究機関 99 機関
- ・ 学会 17 団体
- ・ 大学 88 機関、高等専門学校 51 機関
- ・ 民間企業 170 社

② 募集期間 平成 21 年 6 月 10 日～11 月 30 日

なお当初は 7 月 15 日を応募期限としていたが、国内招聘および海外派遣の募集期間を 11 月 30 日まで延長し、募集を行った。

3) 外国人研究者の国内招聘及び日本人研究者の海外派遣の審査・決定

外国人研究者の国内招聘および日本人研究者の海外派遣の選定にあたっては、5 名の委員で構成される審査委員会を設置し、委員会での審査によって選定した。

審査委員会の委員は、以下の 5 名の方に依頼した。

委員長	田中 勝	鳥取環境大学教授、岡山大学名誉教授
	山本 和夫	東京大学 環境安全研究センター 教授
	森口 祐一	(独) 国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター長
	酒井 伸一	京都大学 環境保全センター教授
	松藤 康司	福岡大学 教授

審査委員会は9月8日(火)15時～17時、(財)日本環境衛生センター東京談話室において開催され、応募者の審査・採択を行った。外国人研究者の国内招聘は9名、日本人の海外派遣は4名がそれぞれ採択された。

表 3-1 国内招聘への応募者及び採択結果

No.	氏名	国名	所属	職名
1	QIAO Wei	中国	College of Chemical Science and Engineering, China University of Petroleum	Lecturer
2	Gao Ding	中国	Center for Environmental Remediation, Institute of Geographic Sciences and Resources Research, Chinese Academy of Sciences	Associate Professor
3	Zhao Hong	中国	Shenyang Environment protection Bureau, Technology and Environmental industry Office	Deputy Division Chief
4	Luong Thi Mai Huong	ベトナム	International Cooperation Department, Hanoi Urban Environment Company (URENCO)	Vice Manager
5	Raju A/L Muniandy	マレーシア	Emergency Unit, Seberang Perai Municipal Council	Head
6	Akmal Malik	インドネシア	Formulation policy division of Social and environmental affairs bureau, West Sumatera Governor Office	Head
7	Premuruadee Charmpoonod	タイ	Phitsanulok Municipality	Mayor
8	Heng Sambath	カンボジア	Accountant and Database Management in Accounting Division of Phnom Penh Waste Management	
9	Hung-Suck Park	韓国	Green Ulsan 21 Environmental Committee (Professor, Department of Civil and Environmental Engineering, University of Ulsan)	Chairman
10	Mel Senen S. Sarmiento	フィリピン	City of Calbayog	Mayor
11	Duoangchanh Lopaying	ラオス	Environment Protection Fund, Prime Ministers Office, Vientiane	Executive Assistant to Executive Director

※1 : No. 4 については、採択後本人の都合により来日不可となり、Dinh Dang Hai ベトナム ハノイ都市整備公社 環境技術部副部長に変更された。

※2 : No. 6 については、採択後來日直前に発生した地震の影響により来日不可となった。

※3 : No. 7 については、採択後本人の都合により来日不可となった。

※4 : No. 9～11 については、申請書受領後書類審査により採決された。

表 3-2 海外派遣への応募者及び採択結果

No.	氏名	所属	職名
1	須藤 祐子	東北大学大学院環境科学研究科	助教
2	市橋 修	東北大学大学院 農学研究科 先端農学研究センター 環境システム生物学分野	教育研究支援者
3	佐野 修司	大阪府環境農林水産総合研究所	研究員
4	福重 真一	大阪大学大学院工学研究科	助教

4) 招聘した国際会議等

国内招聘を決定した外国人研究者 9 名については以下のとおりである。

表 3-3 国内招聘する外国人研究者

国際会議等名称	開催場所	開催期間	招聘者
Overview and Forecast of Municipal Sewage Sludge Management in Beijing of China	京都市	2009/02/10	QIAO Wei (中国)、 Gao Ding (中国) 計 2 名
The 2nd 3R Conference for Asian Local Governments	福岡市	2009/10/24-10/27	Mel Senen S. Sarmiento (フィリピン)、 Dinh Dang Hai (ベトナム)、Hung-Suck Park (韓国)、Heng Sambath (カンボジア)、 Zhao Hong (中国)、Raju A/L Muniandy (マレーシア)、Douangchanh Lopaying (ラオス) 計 7 名

5) 派遣した国際会議等

海外派遣を決定した日本人研究者 4 名については以下のとおりである。

表 3-4 海外派遣された日本人研究者

国際会議等名称	開催場所	開催期間	派遣者
The 10th International Symposium on East Asian Resources Recycling Technology	済州島 (韓国)	2009/11/2-11/5	須藤 祐子
2nd asia pacific regional young water professionals conference (IWA)	北京 (中国)	2009/11/3-11/6	市橋 修
International Conference of East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies (ESAFS9)	ソウル (大韓民国)	2009/10/27-10/28	佐野 修司
ASME 2009 International Design Engineering Technical Conferences & Computers and Information in Engineering Conference (IDETC/CIE 2009)	サンディエゴ (米国)	2009/8/30-9/2	福重 真一

6) 招聘および派遣の成果

国内招聘及び海外派遣の成果として、招聘者および派遣者から報告書を受理した。詳細については別紙 9 を参照。